



本社・宮城大衡工場

黒川郡大和町・大衡村  
第一・第二仙台北部  
中核工業団地



**東北から世界へ 魅力ある“コンパクトカー”をもっと早くお客様へ**

トヨタ自動車東日本は、関東自動車工業・セントラル自動車・トヨタ自動車東北の3社が統合し、2012年7月にコンパクト車の専門集団として誕生いたしました。

宮城県には、第二仙台北部中核工業団地に、シエンタ等を生産している本社・宮城大衡工場があります。また、第一仙台北部中核工業団地には、小型HEV用エンジンやユニット部品の生産をしている宮城大和工場があります。

また、2013年4月には、企業内訓練校であるトヨタ東日本学園を開校し、当社社員だけではなく東北各県の地元企業の方々も受け入れ、生産現場の中核となる人材の育成を行っています。

宮城県は、電気・ガス・工業用水などのインフラが充実している大規模な工業団地があり、高速道路・港湾・鉄道といった物流環境にも恵まれています。

また、それら工業団地は東北の中核都市である仙台市が近く、豊かな自然にも恵まれ、食べ物も美味しく、従業員や家族にも快適な生活環境が揃っています。

宮城県をはじめ、大衡村や大和町及び周辺地域の皆様には、多くのご支援をいただいております。

「東北を元気に」という想いのもと、地域の皆様と一緒にものづくりの輪を広げていきたいと考えております。

今後とも、よろしく願いいたします。



▲シエンタ



宮城工場

黒川郡大和町  
大和流通・  
工業団地



**技術力を活かし、地元で根差したグローバル企業を目指して**

プライムアースEVエナジーは、トヨタ自動車とパナソニックの共同出資により設立されたトヨタグループの企業です。1996年に設立以来、ハイブリッド自動車や燃料電池車に搭載する電池パックの製造を行っています。「地球環境の向上」や「省エネルギー社会の実現」に対する関心が高まる中、ハイブリッド自動車市場拡大を受け、静岡県湖西市の本社・大森工場、境宿工場に続く第3の拠点として、宮城県黒川郡の大和流通・工業団地に宮城工場を建設し、2010年1月に操業を開始しました。その後2023年までに7棟の工場を稼働し、年間の生産能力は148万台となり全社で最も大きな生産拠点となりました。

これまでに主に「シエンタ」や「CH-R」に搭載されているニッケル水素電池の生産を進めてまいりましたが、2018年より「ヤリス」や「RAV4」に搭載する新型リチウムイオン電池の生産を始めるなど、高い性能と品質を兼ね備えた製品を提供しています。

宮城県は、高速道路・港湾・鉄道・空港などの交通網が整備されていることが大きな魅力です。そして、政令指定都市仙台の近くでありながら大自然にも恵まれ、従業員の住環境には素晴らしい地域です。加えて東北を第3の生産拠点とするトヨタグループ企業と密に連携が図れることも弊社にとっては大きな利点です。

また弊社では、地域との結びつきを強くするために社会貢献活動に力を入れ、地元大和町の中学生向け出張授業等のボランティア活動に積極的に参加しております。

今後もカーボンニュートラル社会と地域社会に貢献するグローバル企業となれるよう努力してまいります。



▲電池パック